

「イエスの裁判」

1. はじめに

- ・イエスの裁判はある人に言わせれば「史上最も不法で、残酷な裁判である。」と言われている。
今日この箇所をとおして、人の罪、人の救いと神の愛（アガペー）を学びたい。

2. 本文

*逮捕 → 最高法院（サンヘドリン）

54節「彼らはイエスを捕え、引いて行き、大祭司の家に連れて入った。」

66節「夜が明けると、民の長老会、祭司長たちや律法学者たちが集まり、イエスを彼らの最高法院に連れ出して、こう言った。」

*四福音書の「裁判」について

- ・四福音書はイエスの審問と裁判と判決と処刑が同じ日のうちに強行されたことを記事にしている。

*裁判所について

- ・裁判は月曜と木曜に開かれる。ただし安息日と大祝祭日は開かれない。
- ・死刑の宣告は昼間のうちに限られ、夜は出来ない。
- ・死刑の執行はその日のうちにされてはならず一晩のばされねばならない。

*総督ピラトのもとへ

23：1節「集まっていた彼ら全員は立ち上がり、イエスをピラトのもとに連れて行った。」

・ピラトと群衆

ピラト：23：4「この人には、訴える理由が何も見つからない。」

群衆：23：21「しかし彼らは、『十字架だ。十字架につける』と叫び続けた。」

・ピラトとヘロデ

9節「イエスは何もお答えにならなかった。」

12節「この日、ヘロデとピラトは親しくなった。それまでは互いに敵対していたのである。」

*この裁判をとおして浮き出てくるのは①イエスの説教を信じないサンヘドリン②うそを訴え出るユダヤ人たち③好奇心から物見高になぶりものにするヘロデ④十字架につけることを叫び続ける民衆⑤民衆の声に妥協していくピラトなどですが、義憤を覚えるより人の罪を深く思う必要がある。

3. まとめ

- ・この裁判は初めからイエスの十字架刑を前提としていた。
- ・22：22「人の子は、定められたとおり去って行きます。しかし、人の子を裏切るその人はわざわいです。」
- ・マタイ 26：53, 54「それとも、わたしが父にお願いして、十二軍団よりも多くの御使いを、今すぐわたしの配下に置いていただくことが、できないと思うのですか。～」
 - ・摂理→「神の計画」の意味 cf:ヤコブの子ヨセフの人生
 - ・神の愛—条件付き「愛」と条件のない「愛」